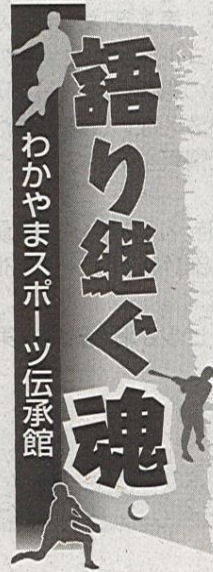


57(平日9時~19時、土日祝日9時~17時) 購読のお申し込み ▶ 0120-34-3733(平日9時~19時、土日祝日9時~17時)



父方の御坊市や母方の由良町で生活した幼少期のフレッド・和田勇氏(右から2人目)



五輪の歴史を語る上で、どうしても外せない人物がいます。選手でもない、大会関係者でもない、1人の八百屋さん。名をフレッド・和田勇といひます。

米ワシントン州生まれの日系2世。4歳から御坊市の父方や由良町の母方の実家に預けられ、計5年間生活しました。再び米国に戻り、農作物の小売チェーン店などの仕事ぶりが評価され、1年で店長に抜擢。20歳で独立した後、ロサンゼルスでスーパ

マーケットを経営しました。

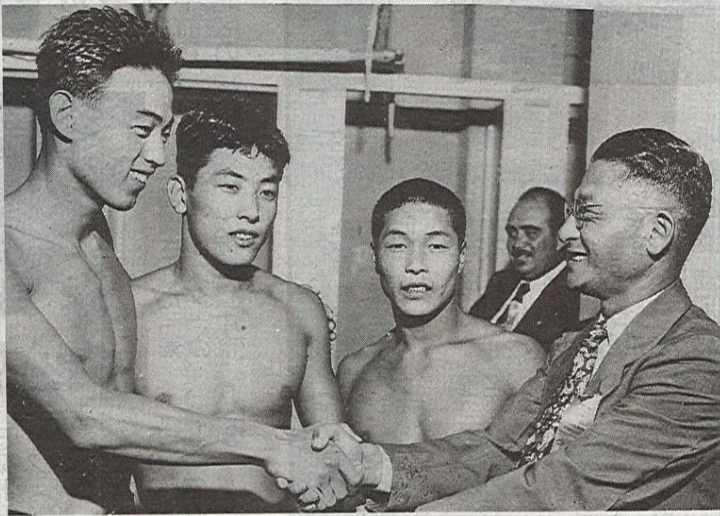
第二次世界大戦後、反日感情が色濃く残る米国で経営を成功させ、実業家に成長した和田氏がどういった経緯で五輪と関わっていくのか紹介します。

敗戦した日本は戦後初の五輪となる1948年ロンドン大会に戦争責任を問われ、参加できませんでした。世界トップクラスのタイムをたたき出す当時の水泳日本選手団を気の毒に思った日本水泳連盟はロンドン五輪と同じ日、同じ時間に日本選手権大会を開催しました。

のちに「フジヤマのトビウオ」と呼ばれた古橋広之進が、この日本選手権で泳ぐたびに世界記録を更新しますが、国際水泳連盟から除名さ

### フレッド・和田勇①

## 反日感情残る米で日本選手団支える



水泳日本選手団を支えたフレッド・和田勇氏(右) // わかやまスポーツ伝承館提供

れていた日本の記録は公式認定されず、幻に終わりました。日本がロンドン五輪に参加できなければ、間違いなく金メダルに輝いたのです。

翌年、国際水泳連盟に復帰することができた日本はロサンゼルスでの全米水泳選手権に参加。やっと世界の土俵で勝負できる機会を得ました。ところが、米国の日本人に対

する目はまだ冷たく、日本人や日系人は「ジャップ」と差別的に呼ばれ、見下されていました。

日本選手団はロサンゼルスのホテル宿泊を拒否され、現地で泊まれる所はないかと募集したところ、「自宅でぜひ」と申し出たのが和田氏でした。和田氏の妻も和歌山県出身とあって、紀州の茶がゆ、心づくしの手料理などで選手をもてなしました。

最高のコンディションを保てるよう考えられた献立、日本では口にできない高価な果物、あたたかい白ご飯、伸び伸びくつろげる環境は選手の記録にもつながったのです。

当初、日本選手の泳ぎを見た米国選手は「日本のプ

ール(のコース)は短い」「ストップウオッチが壊れている」などとあざけりましたが、全米選手権で世界記録を相次いで更新する古橋らの活躍を見て「フライング・フィッシュ・オブ・フジヤマ(フジヤマのトビウオ)」「グレートスイマー」と称賛しました。

日本選手が和田氏のもてなしのおかげと感謝する一方、この活躍を一番喜んだのは米国で肩身の狭い思いをしていた和田氏ら日系人で、選手権会場には「万歳」の音が響きました。そして日系人らは「ジャップ」から「ジャパニーズ」と呼ばれ、胸を張って街を歩けるようになったのです。

戦後日本に復興の兆しをもたらした水泳日本選手団との関わりや祖国日本にささげる情熱から、和田氏と日本、スポーツとの結びつきがスタートしていくのです。  
(わかやまスポーツ伝承館 事務局長 畔取由佳)

◆ 次回は7月3日付で掲載予定です。